沖永良部島下平川の大型有孔虫化石密集産地

【所　在　地】大島郡知名町下平川字瀬田原 264 － 3，265 － 1，266，267 － 1
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 62 年３月 16 日

大型有孔虫化石密集層は琉球層群の瀬利覚層（新生代第四紀更新世）に属し，厚さはこの写真の地点で最大３ m に達する。また，化石密集層は上下を瀬利覚層に属するサンゴ石灰岩層にはさまれ保存良好である。

大型有孔虫化石は，学名 Operculina bartschi Cushman で，扁平円盤状をしている。大きさは最大直径１ cm に達するが，大多数は直径４ mm 前後である。

県道に沿って，この地点から北西側に延長約 500m 露出している。

大型有孔虫化石密集産地は，与論島のものを除けば，県下ではここだけで，化石種・学名が明らかにされていること, 大型で密集していること等, 学術研究上極めて貴重である。

〈参考〉

●有孔虫　有孔虫は原生動物の一種で, 表面から細い糸状の仮足と呼ばれるものがのびる。仮足は殻の移動や固定，餌の捕捉などに使われる。一般に殻径は数 mm　であるが，まれに 10　cm　以上になるものもある。海底にすむ底生有孔虫と，外洋の表層にただよう浮遊性有孔虫とがある。